

弁護士人口に関する統計的な分析表

修習期	合格者	裁判官	検察官	登録可能者	一斉登録	初期比	最大人数	構成比	現人数	同構成比	減員数
60	2,376	118	113	2,145	2,045	95.33	2,119	98.78	2,065	96.27	54
61	2,340	99	93	2,148	2,031	94.55	2,126	98.97	2,065	96.13	61
62	2,346	106	78	2,162	1,978	91.48	2,123	98.19	2,049	94.77	74
63	2,144	102	70	1,972	1,722	87.32	1,926	97.66	1,829	92.74	97
64	2,152	102	71	1,979	1,515	76.55	1,924	97.22	1,882	95.09	42
65	2,080	92	72	1,916	1,370	71.50	1,866	97.39	1,831	95.56	35
66	2,034	96	82	1,856	1,286	69.28	1,789	96.39	1,756	94.61	33
67	1,973	101	74	1,798	1,248	69.41	1,737	96.60	1,726	95.99	11
68	1,766	91	76	1,599	1,131	70.73	1,559	97.49	1,553	97.12	6
69	1,762	78	70	1,614	1,198	74.22	1,578	97.76	1,569	97.21	9
70	1,563	65	67	1,431	1,075	75.12	1,399	97.76	1,399	97.76	0
71	1,517	82	69	1,366	1,032	75.54	1,032	75.54	1,032	75.54	0

- ※ 上記の数字のうち合格者数から一斉登録者数までの数値は、山中理司先生のブログの引用です。
- ※ 60期から65期にかけては、現行修習との併用のため、両者を合算しています。
- ※ 二回試験合格者には再受験組が含まれています。
- ※ 最大人数は、白浜が確認したもので、正確性には若干欠けるところがあります。
- ※ 現人数は、平成30年12月26日の日弁連HPからの検索結果です。